



◆生育状況について

果実肥大は平年並みから大きめとなっている。8月高温により果実の日焼けが発生している。
また、8月末の多雨（降水量163mm）があったため、病害増加が心配される。

◆当面する重点作業について

1. 土壌の乾燥対策、多雨による根痛み対策として、排水対策に努める。※果樹総合情報No.6参照。
2. 徒長枝切り、支柱立てを行い、受光体制、薬剤の掛かりやすい、風通しのよい状態にする。
なお日焼け対策として、葉摘みや支柱立ては、果実温が十分に上がった午後から実施すると共に、徒長枝の切りすぎ、葉の摘みすぎに注意する。
3. 樹相に合わせた着色管理を行う。
4. 鳥害・ヤガ対策を行う。※果樹総合情報No.6参照。
5. 降雨続く、降雨時間が長い場合は、炭疽病などの発生が心配される。また、スモモヒメシクイ対策を含め、薬剤散布は散布間隔に注意し、適期に薬剤散布を実施する。

◆炭そ病対策について

現状は発生が散見程度だが、降雨の影響で多発が懸念される。この病害は二次感染による被害拡大に注意が必要なため、園内巡回を継続的に実施し、対策を行う。

1. 発病果実が樹上に残っていると、雨により発病下部へ二次感染する。
多発時は、薬剤散布だけでは対応できない。
2. 発病果実を見つけ次第取り除く。地面の上に落としておかない。園外に持ち出す、土中に埋めるなど処理する。
3. 発病果実の病斑部を触った場合、洗浄する。

◆品質向上対策について

品質向上対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第14回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000当り

【品質向上対策】 ※液肥は、ラベルに記載が無い場合、展着剤不要です。

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	2,000倍	50ml
ケルパック66	1,000倍	100g
友果	500～1,000倍	200～100g



資材名	使用倍率	調合量
色一番E	1,000～2,000倍	100～50g
サンカラー	1,000倍	100ml
メリット赤	500倍	200g
カルビタP	770倍	130g

◆第 1 4 回薬剤散布について

1. 散布時期：9月16日（水）～20日（日）

実際散布月日 月 日

2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展 着 剤	10,000倍	10ml	—	—
（ダントツ水溶剤）	3,000倍	33ml	前日	シンクイムシ類・リンゴワタムシ
ストライド顆粒水和剤	1,500倍	66g	前日	斑点落葉病・黒星病・すす斑病・すす点病・褐斑病

3. 散布上の留意事項

- 1) 果面の汚れ軽減のため、通常展着剤に代えて、展着剤ササラ 2,000 倍（水 100ℓ 当たり 50ml）又はスカッシュ 1,000 倍（水 100ℓ 当たり 100ml）を使用してもよい。
- 2) スモモヒメシンクイ・リンゴワタムシ発生園では、ダントツ水溶剤を加用散布する。
- 3) ストライド顆粒水和剤は高温時に使用すると薬害が発生する場合がありますので、涼しい日を選んで（当日だけでなく翌日も）使用する。

◆中晩生種落果防止・軟質果防止剤の散布について

【ストップボール液剤】の場合

1. 散布時期・使用薬剤（展着剤不要）

※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400～500ℓ以上・収穫前25～7日前

対象品種	使用倍率	調合量	散布時期目安	実際散布日
シナノゴールド	1,500倍	66ml	9月16日（水）～9月20日（日）頃	月 日
王林	1,500倍	66ml	9月24日（木）～9月28日（月）頃	月 日

【ヒオモン水溶剤】の場合

1. 散布時期・使用薬剤（展着剤不要）

※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400ℓ以上・収穫前25～4日前

対象品種	使用倍率	調合量	散布時期目安	実際散布日
シナノゴールド	1,000倍	100ml	9月16日（水）～9月20日（日）頃	月 日
王林	1,000倍	100ml	10月8日（木）～12日（月）頃	月 日

2. 散布上の留意点

- 1) ストップボール液剤と異なり、着色増進効果は期待できない。硬度の影響は年の条件によって異なる。熟度促進は、ないあるいはやや進む程度。
落果防止効果の継続は、短くなる事が推察され、本格的な落果が始まると、続くため収穫を急ぐ。
散布から30日以上経過した場合、落果が多くなる場合がある。

◆秋映・シナノスイートの着色管理について

1. 葉つみの時期が早いと日焼けをおこすので、天候を確認しながら実施する。
西日のあたるところは日焼けになりやすいので、密着している葉程度の実施する。
着色に影響しない果実周りの立っている葉を残し、糖度向上と日焼け防止を図る。
2. 日焼け防止の為に葉摘みや支柱立ては果実温が十分に上がった午後から実施する。
また、徒長枝の切りすぎや葉の摘みすぎに注意する。極端な葉つみは日焼けの発生や着色を不鮮明にし、さらに来年の花芽形成も悪くするので注意する。

◆秋映収穫及び出荷目揃い会開催について

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
9月23日	水	午前 9:30	篠ノ井西部流通センター(車は東側駐車場へ)	徳武
		午前 11:00	篠ノ井 塩崎共選所	徳武
		午後 1:30	篠ノ井瀬原田 福島宏之様園	徳武
		午後 3:00	篠ノ井 有旅集荷所	徳武
9月24日	木	午前 11:00	更北 真島フルーツセンター	根津
			若穂 若穂流通センター	寺澤

※上記以外の地区は、果樹営農技術員まで。

◆有袋ふじ除袋（一挙除袋専用袋）について

1. 除袋時期：9月下旬日頃

◆ふじ着色管理について

1. 葉つみ前に支柱立て、枝つりを徹底する。
2. 9月末頃は、徒長枝を中心に葉つみを開始する。
3. 日陰を作っている徒長枝の葉を、先端のみ残してコク。むやみに切らない。
4. 葉つみは、2～3回に分け、着色の進行に合わせて徐々に強めに実施する。
果そう葉の場合、最初は1～2枚程度の葉摘みと摘果時より残っている果柄を落とす。
なお、玉回しは1回目の葉摘み時に行わず、2回目の葉摘み時に行う。
作業が間に合う場合、10月に入ってから葉摘みを行うと効果が高い。
10月中旬以降になると果実の熟度も増し、気温も下がってくる。強めの葉摘みもよい。
5. 樹勢が強く玉伸びがよい樹や若木は早い時期での強めの葉摘みをつつしむ(順番を最後にする)
また、褐斑病やハダニ被害にあって葉が痛んでいる樹は葉摘みを遅らせる。

◆9月肥(礼肥)の施用について

葉を若返らせて光合成を盛んにし、花芽の充実・貯蔵養分の蓄積を図り、翌春の初期生育(開花・結実)を助ける。ただし、秋伸びを避けるため、若木・強勢樹は施用しない。

1. 施用時期：1) 早生種 つがる＝9月中旬
2) 中生種 秋映・シナノスイート＝収穫終了後
2. 施用量：一般的な成木の場合 ・有機専科 1袋を施用する。
(10a当り⇒主体となるチッソ成分量で1～2kgを目安にする)

3. 留意事項

- 1) 有機専科以外を使用する場合は含有成分量を計算し、適正量を施用する。
ただし、カリ過剰になっている園はカリの入っている肥料（醗酵ケイフン等）の施肥を控える。
また分解の遅い肥料は時期を早めて施肥する。
- 2) 樹勢が強い場合は、9月にスミクリン5袋を施用する。軽いため風の無い日を選んで施肥する。

◆高密植（新わい化）栽培の9月肥（礼肥）の施用について

9月～10月に施用した養分は、根部に蓄積され3～4月の初期生育に使用されると共に、凍害軽減にもなり、高密植・新わい化栽培において秋の肥培管理は特に重要となる。

主幹先端の伸長が30cm以上になるよう調整する。

1. 施用時期

- 1) 早生種：シナノリップ・つがる＝9月中旬
- 2) 中生種：秋映・シナノスイート・シナノゴールド＝収穫終了後
- 3) 晩生種：ふじ等収穫の遅い品種は、3月頃になってから行う。

2. 施用量

- 1) 定植2年目：「グリーン長野果樹専用有機入り72」1袋と「果樹の力」1袋
- 2) 成木：有機専科2袋（樹勢が弱い場合は3袋）
収量が多くなるに従い樹勢に応じて調整する。施肥は株元中心に行う。

3. 樹勢の判断 主枝延長枝の適正伸長

- 1) 定植1年目：30～50cm（100cm伸びても良い）
- 2) 定植2年目：50～100cm（150cm伸びても良い）
- 3) 定植3年目以降：30～70cm

4. その他肥料

高密植・新わい化栽培では生産量が多いことから、カリ（加里）を多く消費するので、「有機専科」に代えて「醗酵けいふん（ペレット状）」3～4袋でもよい。

「ペレット状」と「粒状」では、成分が異なるので注意する。また土壌pHが高い場合は使用しない。

なお、土性診断を行うとカリウム過剰になっている園が多いので、今の所欠乏問題は無いが、今後は施肥も必要になる。

「醗酵けいふん」は、窒素肥料も含まれるが、加里や石灰も多く含まれるため、過剰の園では控える。

◆うまいくだものコンクール「シナノスイート」開催について

下記内容で開催されます。希望者は申し出てください

1. 主催：長野県園芸作物生産振興協議会、長野県園芸特産振興展推進協議会
共催：JA全農長野県本部、JA全農長野果実専門委員会リンゴ部会
2. 開催日：令和8年10月15日（木）
3. 開催場所：松本合同庁舎講堂（一般公開無し）
4. 申込：9月28日（月）までに、各流通センター駐在果樹技術員まで
出品に係わる留意事項・出品申込書を受け取り、必要事項記入の上、提出ください。
5. 出品財：JAに届き次第連絡いたしますので、申込者は指定場所で引き取りください。
6. 出品方法：開催場所への搬入は、JA・県で対応いたします。
10月14日（水）正午までに、指定場所に持ち込みください。